

「あたたかなはげましをありがとう」

阪之上小学校 山本 愛

私は忘れない。あの日のことを……。

午後5時56分「がたがたがた」地震は私達新潟県の人々をおそった。

あの地震で、多くの人が亡くなって、きれいだっただ町も一しゅんにしてがれきの山になり、きれいな家だっで一しゅんにしてくずれて……。私の町も、家もなに一つ不自由は

ない。それに友達もだれ一人亡くなっていな
い。多くの大切な物を亡くした人の気持ちは
どんなものだったでしょう。考えるだけで悲
しくてつらくて、きつと大切な物を亡くした
人達の気持ちは私以上だったにちがいない。

その時はまだ地震をにくんでいた。たくさ
んのひがりを受けた山古志、おじや、川口の
人達だっ、て、きつとにくんでいただろう。き
れいな町、自分の家、そしてなにより大切な
人までをなくしてしまったのだから……。

でも、そんな気持ちは、だんだん変わって、地震にかんしゃするようになった。それは全国の人々からのあたたかなはげましがあったからだ。たくさんのお物や手紙をもらい、私の心は「がんばらない」という気持ちになっていった。た。き。と。た。く。さ。ん。ひ。が。い。を。受。け。た。人。も。そ。う。思。っ。て。い。る。だ。ら。う。

地震がなかったら、山古志の友達にも会えなかった。ただろうし、地震があつて、命の大切さ、友達の大切さが分かったから一年たった。

今は、地震にかんしゃするようになった。地震は私達にいろいろなことを教えてくれて、前の私の地震をにくんでいった心から、前向きに「がんばらない」という気持ちになることができた。

この一年間いろいろなことがあつたけど、大きな心の変化は気持ちが前向きになつたこと。地震をにくまなくなつたこと。そこまでの気持ちになるには、全国のみなさんのはげましがあつたから。本当に本当にありがとう。